

東京 iCDC 運営委員会（第 6 回）議事録

日時：令和 3 年 6 月 24 日（木） 18 時 00 分～19 時 00 分

場所：第 1 本庁舎 4 2 階特別会議室 A

出席委員：賀来委員長、脇田委員（web）、館田委員（web）、今村委員、神谷委員（web）、奈良委員（web）、猪口委員（web）、角田委員（web）、増田委員（web）、渡部委員（web）

出席委員（都）：梶原委員、小林委員、吉村憲彦委員、田中委員、矢沢委員、齋藤委員、藤井委員、杉下委員、加倉井委員、河野委員、吉村和久委員（web）

オブザーバー：吉田真紀子氏（web）、藤本病院経営本部経営戦略担当部長（web）

その他出席者：森村尚登氏、田中耕一氏（web）、河岡義裕氏（web）

専門家ボードチームリーダー：中島一敏氏（web）、松本哲哉氏（web）、長谷川秀樹氏（web）、大毛宏喜氏（web）、加來浩器氏（web）

議事 東京 iCDC の活動状況について

（東京都より）

- ・資料 1 及び資料 2 について説明

（専門家ボードチームリーダーより）

- ・各チームの活動状況について

（疫学・公衆衛生チームリーダー：中島一敏氏）

- ・疫学・公衆衛生チームでは、人流のモニタリングと流行状況の評価を行っている。
- ・また、日々の疫学情報の分析に基づく、意見交換を行っている。

（感染症診療チームリーダー：大曲委員※事務局代読）

- ・新型コロナのレジストリを活用した研究として、第 3 波までの感染状況や重症化、ステロイドを含めた治療や投薬状況について議論している。
- ・後遺症の問題も含め幅広く議論してきたが、今後も新しいトピックについて検討していく。
- ・5 月に後遺症タスクフォースを設置し、本日リーフレットを発表した。
- ・レジストリについては、今後もデータの収集を行っていく。

（検査・診断チームリーダー：宮地勇人氏※事務局代読）

- ・検査・診断チームでは、4 月に、都が策定した「新型コロナウイルス感染症に関する検査体制整備計画について」、6 月に、都が民間検査機関に対して実施した、検査体制や検査の実施状況に関するヒアリングについて、チーム内で意見交換を行っている。

- ・今後、より積極的な検査を行っていけるよう、チーム内で議論していく予定。

(リスクコミュニケーションチームリーダー：奈良委員)

- ・3月「都民1万人アンケート」の結果をモニタリング会議及びnoteで公表した。
- ・アンケート結果は、都民の意識だけではなく、感染症対策の実態、ワクチンに対する考え方や接種意向等の詳細を聞いており、そのデータ間、変数間の分析も進めている。
- ・今後はトピックに応じて、小回りの利く調査をしていけるよう議論していく。

(感染制御チームリーダー：松本哲哉氏)

- ・都民向け及び自宅療養者向けハンドブックを作成した。
- ・高齢者介護施設への事例集の作成に向けて作業を進めている。

(微生物解析チームリーダー：長谷川秀樹氏)

- ・医学総合研究所にて小原先生非感染者における血清疫学上の結果を発表。
- ・ゲノム解析タスクフォースが結成され、ワクチンの有効性や、臨床像も含めて、変異株の状況について議論している。
- ・今後は、ゲノムで解析した変異とそのウイルスの性状について議論していく。

(研究開発チームリーダー：大毛宏喜氏)

- ・空間、環境に対する感染対策や人流分析の他、若者に対するメッセージなど多彩な視点からの研究開発の提案を行っている。
- ・引き続き、コロナ以外も含めメッセージを出していく。

(人材育成チームリーダー：加來浩器氏)

- ・都内における感染症対策担う人材の研修プログラムの在り方について検討している。
- ・メンバー内にて、九州や関西との連携も今後考えていく他、実践力を身につける取り組みや優先的に重点的に規制すべきスキルについても具体的なニーズを把握しながら検討していく。

(賀来委員長)

- ・8つのボードが立ち上がったが、立ち上げから8か月での活動について意見をいただきたい。

(脇田委員)

- ・ゲノム解析タスクフォース等に参加させていただいているが、他の各チームでも有意義な

成果物が出ているので、今の活動を続けていくのが大事だと考える。

(館田委員)

- ・東京 iCDC の活動状況を、国のアドバイザリーボードでも共有する機会を設けるのもよいのではないか。

(田中耕一氏)

- ・現状として、ワクチンやリバウンドの恐れ、オリンピックなどの様々な要因があるが、長いトンネルの出口が見え始めたところではないかと思う。気を緩めがちになるが、これまでの経験の中で共有された知識や知恵の整理をし、次に備えることを意識していかなければならないと考える。
- ・平時にも備えて、後世に残すような活動に力を入れてもよいのでは。もともとの東京 iCDC 設置の目的でもある。

(河岡義裕氏)

- ・各チームが活発な活動の中で成果を上げられている。引継ぎお願いしたい。

(猪口委員)

- ・ICDC の活動が順調に進んでおり、活動の中での知識が、私たちの会議の話し合いの中にも反映されていると実感した。

(森村尚登氏)

- ・最新の知見を含めた分析結果や解釈を共有させていただき、戦略策定に役立っている。これからも継続的に共有していただきたい。

(今村委員)

- ・メディア勉強会の反響はどうだったか。

(事務局)

- ・メディアからは反響も大きく、好意的な意見が多いが、意見交換の時間の設定の要望が出ている。今後の開催の際には、改善していきたい。

(今村委員)

- ・何かがあった時だけでなく、日頃からやりとりをすることで情報共有の機会にもなる。全

体の大きな情報として流れるのが非常に大切になる。

(賀来委員長)

- ・ 今後は、1 ヶ月に 1 回程度、メディアが聞きたいことはあるいは理解したいことを中心に、先生方にお声がけしながら進めていきたい。

(奈良委員)

- ・ メディア勉強会の試みはとてもよい。メディアはワクチンや変異株について、伝えたいという思いが強いので、勉強会の中で対話をし、お互いのニーズをすり合わせたい。
- ・ 平時から進めていき、よりよい報道の在り方を見つけていければ。

(具芳明氏)

- ・ ウェブによる情報発信で、緊急事態宣言中の note の閲覧数が少ないので、情報発信の方針をはっきりさせるとよいのではないか。

(加倉井委員)

- ・ note については、今年度に入ってから閲覧数が伸びるテーマを紹介できていないので、変異株やワクチンなどの企画を今後積極的に打ち出していきたい。

(賀来委員長)

- ・ 都民の方に的確な情報を共有するための手段についても議論していきたい。
- ・ 東京 iCDC の活動状況についても細やかな情報発信も進めていきたい。

(賀来委員長)

- ・ 東京都の感染者数が、今週に入って感染が再び増加している状況。
- ・ 今後、人流抑制や、クラスター発生時の対応、積極的な検査、ワクチン接種をどのように行っていくか。ご意見をいただきたい。
- ・ また、変異株についても確実に増えてきている状況。今の感染状況を含めてご意見いただきたい。

(脇田委員)

- ・ 東京は滞留人口が 5 週連続で増加している。
- ・ 去年の例も踏まえると、この夏も徐々に人流増加が見込まれている。
- ・ 今後どこのタイミングで強い対策を打つかが問題になると考える。7 月の連休前には人流を抑制する対策を打ちたい。
- ・ 対策が遅れるとよくないので、国のアドバイザリーボードでは、なるべく客観的な評価を

して、対策に繋げていきたいと考えている。

- ・ワクチンの高齢者への接種が半分程度のため、まだ重症者の減少には時間がかかるのではないかと。

(賀来委員長)

- ・非常に厳しい状況になりつつあり、早めの対応が重要になる。
- ・先生方と情報を共有しながら、早い段階からの対応をしていきたい。

(光武耕太郎氏)

- ・外来診療の中で、ワクチン接種後どうしたらいいかの質問が多くなっている(マスクや、家族旅行のことなど)。ワクチン接種を終えた医療従事者も含め、全体として緩みかけている傾向がある。
- ・ワクチン後の在り方について、具体的に伝えられるとよいのでは。

(森村尚登氏)

- ・オリンピックによる医療提供体制への影響が懸念としてある。感染急増のシナリオも出ており、医療機関においてどのくらい対応できるか具体的な数字を示せるとよいと考える。
- ・繁華街の夜間滞留人口と実行再生産数の因果関係の予測を出せないか。現場での負荷も見えてくるため、リスクの大きさを共有でき、医療のひっ迫を防げるのでは。

(協田委員)

- ・人流が10%以上上がれば、かなりのスピードで感染者数は増加すると予測されている。
- ・夜間滞留人口の22時から24時の人流が30万人を超えてくるところがthresholdになる。
- ・インド株の置き換わりがなければ、感染者数は増えても、ワクチンの接種の効果もあり、重傷者はそれほど増えないが、置き換わりが進むと病床キャパシティを超える予測シナリオも出ている。

(谷口清州氏)

- ・7月末には緊急事態宣言レベルになる予測が出ているが、東京都からは包括的なコメントがなく、現状の評価と今後の予測は、一般の方には分からないのでは。現状こうなるということについては都民に情報共有したほうが良い。

(賀来委員長)

- ・新たな専門家ボードチームメンバーとして3名の先生方にご参加いただくことになった。
- ・研究開発チームに鈴木忠樹先生(国立感染症研究所感染制御部長)、感染制御チームに金光啓二先生(福島県立医科大学附属病院感染制御部長)、人材育成チームに竹村弘(聖マ

リアンナ医科大学感染制御部長) にお願ひする。

(鈴木忠樹氏)

- ・どうぞよろしくお願ひいたします。

(金光啓二氏)

- ・福島県立医科大の金光と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

(竹村弘氏)

- ・大変光栄に思ひます。先生方のお手伝ひをできれば、よろしくお願ひいたします。

(賀来委員長)

- ・活発な議論をいただき、様々な貴重なご意見をいただいた。本日の意見を踏まえて iCDC の体制整備と機能強化を進めてまいりたい。

(梶原委員)

- ・感染者数が再拡大の様相を呈しているが、ワクチンの接種もあり、今までとは様相が違っており、感染者数の拡大の状況も変わってくるのではないかと考へている。
- ・国からモデルナの接種を検証するという話が出ており、東京都においてワクチンが足りない状況が出来つつあるため、戦略的なワクチンの接種についても国にお願ひしたいと考へている。

(脇田委員)

- ・医療従事者の感染も減ってきており、接種がそれほど進んでいない高齢者施設についても進めていくべく戦略的な接種については国の分科会にて提言されているところ。感染症対策として、脆弱な方がいる場面でワクチンを使っていく。

(加倉井委員)

- ・次回の日程調整については、事務局より後日ご連絡させていただく。